

弥生時代の環濠集落

田原本町は奈良県北西部の大和平野地域のほぼ中央部に位置し、面積は21・09平方メートルで、南側は橿原市に隣接する。この田原本町に今から2000年前、日本最大級のムラがあった。50畳分の面積がある建物が建ち、日本各地からの人との交流とともに、物産が運ばれてくる拠点的なムラだったことが分かっている。これが唐古・鍵遺跡である。

唐古・鍵遺跡は弥生時代を代表する大規模な環濠集落遺跡として、99年に国史跡に指定され整備が進んでいた。そして18年4月、弥生時代の風景・生活を実感・体験できる「唐古・鍵遺跡史跡公園」が

開園した。公園面積約10・2万㎡、主な施設として遺構展示情報館、屋外展示施設（大型建物の立柱・環濠）、復元楼閣がある。その他、環濠を復元した多重環濠エリア、弥生時代の植生に則した樹木を植えて当時の林を再現した弥生の森エリア、イベントなどができる生活体験広場、トイレ、東屋も設けられている。遺構展示情報館内では発掘調査を再現し、古代遺跡ファンには魅力的な施設である。地域に根付いた公園として

一般財団法人日本不動産研究所 ⑥

地域資源を生かす

～まちづくりからインバウンドまで

奈良県 田原本町

の役割だけでなく、「弥生の風景」を体現できる空間で自然に身をゆだねながら、古代人の日常に思いを馳せる公園となっている。

地元野菜のグルメ

「唐古・鍵遺跡史跡公園」と同時に国道24号を挟んで対角線の位置に開業したのが、道の駅「レスティ唐古・鍵」である。県内初の史跡公園と道の駅とが一体となった施設で、鉄骨造り3階建の建物内には売店やカフェ、展望テラ

道の駅は、観光資源が多い橿原市や明日香村などの県中南部地区への玄関口、田原本町をアピールする施設としてだけでなく、地元の交流拠点としての機能も備え、「唐古・鍵遺跡史跡公園」の案内役も担っている

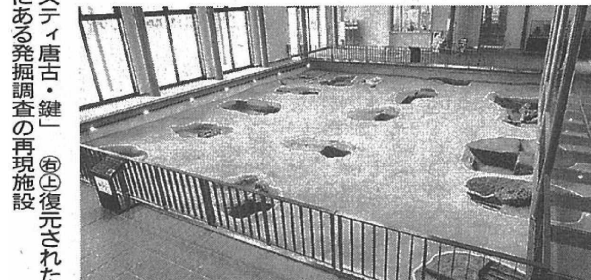
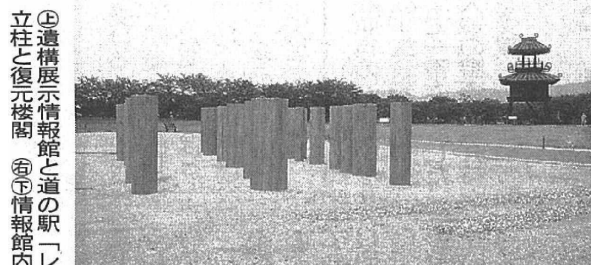
唐古・鍵遺跡の本格的な発掘調査は約40年前から始まった。09年から史跡公園とするための本格的な工事に着手し、本年4月に開業した。最寄り駅からやや遠いが、県内を南北に縦断する国道24号に面し、車を利用して訪れるには最適な場所にある。遺跡をメインとした史跡公園として整備し、道の駅を同時に設けたことで、古代遺跡ファンだけでなく近隣住民や観光客等が訪れやすい施設として生まれ変わった。

唐古・鍵遺跡史跡公園と道の駅のコラボ 相乗効果狙う県内初施設

スなどがあり、大型車10台、乗用車75台分の駐車スペースを備えている。

田原本町は全国的にも農業が盛んな町であり、町面積に対する耕地面積率は約42%を占め、米だけでなく色々な美味しい野菜・果物が生産されている。そのため、道の駅では地元の旬の野菜や果物、お土産や特産品を置いた軽食などの道の駅グルメも楽しめる。

史跡公園と道の駅のコラボは始まったばかりだが、その相乗効果が確実なものになれば、同様の一体型施設が遺跡の多い奈良県内に生まれる可能性はある。実際、周辺の国道24号沿い飲食店の来客数は、施設開業後増加しているとのことである。新たな地域資源を生かしたモデルケースになるのではないだろうか。
(奈良支所、不動産鑑定士・内田佳宏)



④遺構展示情報館と道の駅「レスティ唐古・鍵」 ⑤復元された立柱と復元楼閣 ⑥情報館内にある発掘調査の再現施設